



自動車排出ガス・騒音規制強化等推進費

平成28年度要求額
181百万円 (173百万円)

背景・目的

- 自動車排出ガス・騒音規制の導入及びその強化により環境は改善傾向にあるものの、大気汚染や騒音に係る環境基準が依然として達成されていない状況
- H25年度環境基準達成率
NO₂ (自排局) : 99%、騒音 (幹線道路) : 88.2%
- また、排出ガス後処理装置等、高度な排出ガス低減技術の導入により排出ガスの性状が変化し、未規制物質の増加が懸念される

事業概要

- ①自動車次期排出ガス規制策定 (113百万円)
 - 実使用環境下の規制物質排出総量の算定、規制による効果把握調査
 - 自動車からのPM2.5及びPM2.5の前駆物質について、時間的・空間的な広がり、車両の経年劣化等を考慮した排出原単位の作成
- ②自動車からの微小粒子状物質・未規制物質等実態分析 (37百万円)
 - PRTR法に基づく排出量算定のための未規制物質調査
 - PM個数・成分等調査、粒子数による測定方法の検討
 - バイオディーゼル使用時排出ガス調査
- ③NO_x後処理装置の使用過程での性能確保対策策定 (14百万円)
 - 性能低下メカニズム解明のための調査、検討・性能確保対策の検討
- ④交換用マフラーに係る騒音対策強化等調査 (16百万円)
 - 現行マフラー性能等確認制度の制度導入効果の確認
 - 交換用マフラーの性能実態調査及び試験法の見直しの検討

事業スキーム

環境省
(施策の検討)

委託・請負
結果の報告

民間事業者
(調査等の実施)

期待される効果

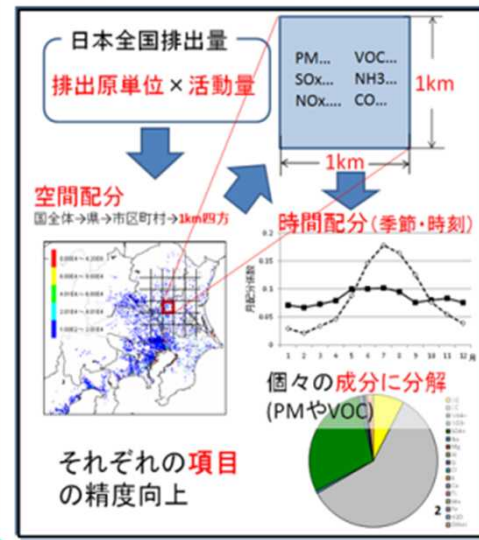
- 実使用環境を考慮した自動車排出ガス・騒音対策等の導入
- 未規制の排出ガス・燃料等に対する新たな規制の導入
- 使用過程における自動車排出ガス・騒音の低減

事業目的・概要等

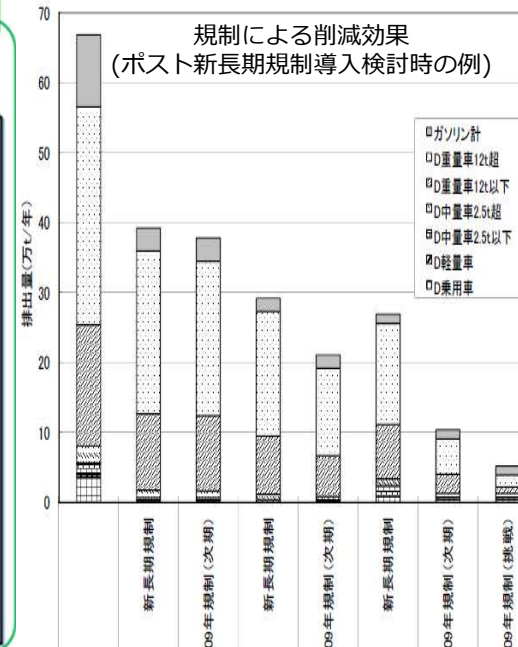
○現行規制の強化・見直し、未規制物質の排出実態の把握

イメージ

PM2.5等の排出原単位の作成 シミュレーションのための 自動車からのPM2.5排出原単位



自動車からのPM2.5等の排出原単位を作成し、時刻別、地点別の排出量の分布を分析するための排出インベントリを作成

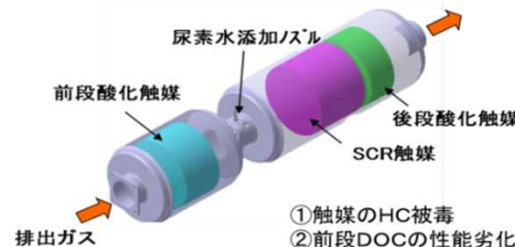


規制強化を踏まえた規制物質の排出量を推計することで削減効果を試算することが可能

○使用過程車の排出ガス・騒音対策強化

NO_x後処理装置の使用過程における性能低下対策

交換用マフラーの騒音対策



NO_x後処理装置の主流となる尿素SCRシステムの耐久性・信頼性を確保



交換用マフラーの普及状況の調査